

# 新西町内会広報

発行 平成26年12月  
発行責任者 小関 日出男

**特集**

『新町っ子餅つき大会』 12月7日開催

恒例の「新町っ子もちつき大会」が12月7日、新町小学校体育館で開催されました。今号では、その様子を特集しています。

29回目を数えるもちつき大会は、幼児が33名、小学生74名、父母保護者などで総勢230名の参加者がありました（町内会からは手伝いとして35名が参加）。今回は飛び入り参加者が24名とたいへん多く、一時は「餅が足りなくなるのではないかと、心配した一幕もありました。幸いにも



とぎ上がったもち米



手洗いを励行



蒸し具合を確認

インタビュなど  
「実家では毎年餅つきをしている」と若いお母さんしかし、出来合いの餅を食べているのが現状。自分で餅をついて、ちぎって丸め好みのタレを付けて食べるのは普段できないこと。子供たちは、競いあうように

ちょうどいい具合に収まり大いに盛り上がった大会となりました。子供たちの帰り際には、お土産を持たせることもできて無事終了いたしました。



サンタさんが相の手

結びとして  
今回は、子供たちにお米を蒸している裏方の作業も見せたいものです。親父の会、父母の皆さん、学校をまとめてくださった内藤先生、ありがとうございました。会員の皆さん、お疲れ様でした。来年また、楽しくやりましょう！

つき手では父親が目につき、「4回やって慣れていく。楽しいよ」という頼もしいお父さんもいました。

笑顔で見守っていた藤木校長は「今までの学校でも餅つきはありました。稲から育てて米を収穫し餅を作るといふ教育の一環でした。地域の人と一緒に行うのは初めて。子供たちも自分の周り以外の人を知るよい機会と話していました。」

食べていました。中には餅を頬張り「10個は食べた」と言う元気な男の子も。笑顔で見守っていた藤木校長は「今までの学校でも餅つきはありました。稲から育てて米を収穫し餅を作るといふ教育の一環でした。地域の人と一緒に行うのは初めて。子供たちも自分の周り以外の人を知るよい機会と話していました。」



とてもおいしいと仲良しの二人



好みのタレで味付け



校長先生のごあいさつ

一年を振り返って（談話）  
新西町内会長 岡本重明  
町内会長として初の年越しを迎える岡本会長の談話から、その一部を掲載しています。

「他の町内会の方からよく言われるのですが、当町内会はいつもたくさん役員、会員さんのご支援ご協力があり、深く感謝しております」「心に残った事業では、母校でもある聖園中閉校に関するものが一番です」

「40年ほど前、大学からの帰省時、火事で校舎が無くなった年の暮れの事を思い出しました。」「閉校は私の青春の一頁が無くなるような気もして寂しいねー」

町内会への寄付について  
永く当町内会に貢献された、故関口利男様のご遺族よりご寄付がありました。

### 編集後記

「一人で出せないならやめてしまえ」とも言われた広報です。他力本願で5号目に。町内活動の一部は伝えることが出来たと思います。感想などお寄せくださると嬉しい。師走も後わずか。新しい年が皆様にとって良い年であることを願いつつ…。（小関）